

会 議 結 果 の お 知 ら せ

令和８年度第１回宮古市男女共生推進委員会を次のとおり開催しました。

令和８年８月７日

宮古市男女共生推進委員会

- 1 開催日時
令和８年７月３０日（木） 午後２時～午後３時
- 2 開催場所
宮古市役所２階２－１（西）会議室
- 3 議題
(1) 報告事項 第５次宮古市男女共同参画基本計画の評価について
(2) 協議事項 第６次宮古市男女共同参画基本計画実施計画(案)について
- 4 会議の概要
別添のとおり
- 5 問い合わせ先
地域振興部地域づくり推進課市民参画推進係
電話０１９３－６８－９０８０

令和8年度第1回宮古市男女共生推進委員会 開催結果

- 1 出席者（10名）
 - ① 宮城貞子委員長 ② 坂本紗綾委員 ③ 八木澤江利子委員 ④ 竹原雅子委員
 - ⑤ 三浦ミヤ子委員 ⑥ 伊藤エミ子委員 ⑦ 加藤勇介委員 ⑧ 菅原昭敬委員
 - ⑨ 伊藤清香委員 ⑩ 腹子摩裕美委員
- 2 欠席者（4名）
 - ① 鈴木将人委員 ② 佐藤裕介委員 ③ 吉水和也委員 ④ 佐々木正宜委員
- 3 事務局出席者（4名）
 - ① 地域振興部長 褒岩邦行
 - ② 地域振興部地域づくり推進課長 柁家真由美
 - ③ 地域振興部地域づくり推進課副主幹兼市民参画推進係長 小林亜由
 - ④ 同係 主事 船越七海
- 5 傍聴者 1名
- 6 議事等
 - (1) 報告事項 第5次宮古市男女共同参画基本計画の評価について
資料に基づき事務局から報告した。
 - (2) 協議事項 第6次宮古市男女共同参画基本計画実施計画(案)について
資料に基づき事務局から説明、審議を行った。一部修正のうえ承認された。

質疑応答内容

質問・意見	回答
【(1)報告事項 第5次宮古市男女共同参画基本計画の評価について】 (委員) 職場や保護者の方から、子育てにおける様々なサポートについて、ファミリーサポートセンターの方に非常に助けていただいているという声を聞いている。会員数が目標値に満たないことから、達成度は「C」であるが、実際に保護者の方から「もっと会員数を増やしてほしい」といった声はあるのか。また、ゲートキーパー養成数について、目標値を達成したとあるが、具体的にゲートキーパーが増えることで効果的なことはあったか。	(事務局) 評価基準として、達成率が80～100%未満の場合Cとなる。このことから、数値としてはC評価であるものの、取り組み状況を踏まえた肌感的にはもう少し高く評価できるのではないかと考える。前段の会議である、男女共同参画推進連絡会議にて担当課であることも家庭センターからも、児童数の減少に即した指標の設定について意見があった。目標値については、待機児童ゼロの現状を維持できるように取り組み内容としているとのこと。ゲートキーパーについては、健康課が所管しており、庁内職員に対し研修会を実施している。悩みの傾聴を通じ、悩みを抱える人へ寄り添うことを目的として実施している。具体的効果については

(委員) 現状値がR 2 とはどういったことか。 (委員) 男女共同参画サポーターについて、数字としては目標達成に近い状態であるが、サポーターの認定を受けた方が認定後どのような活動を行っているのか。また、以前はサポーター養成講座の他に研修やステップアップ講座といったものがあったのに対し、現在は4教材の受講のみで認定を受けられるようになっている。このことから、認定を受けたサポーターはどのようにして男女共同参画の視点から学びを深め、活動を行う事ができるのか。市で講座等の事業を実施しているが、更なる学びの機会の充実や、事業内容の工夫が必要なのではないか。 (委員) 基本課題Ⅱ 2 「女性の人権は尊重されていると感じる人の割合について」は市民アンケートによる結果か。 (委員) 基本課題Ⅱ 「デートDV の認識度」及び基本課題Ⅲ 「ジェンダーの認識度」についても、令和6年度に実施した市民意識調査の調査結果によるものか。 (委員) 基本課題Ⅱ 「デートDV の認識度」及び基本課題Ⅲ 「ジェンダーの認識度」について、達成率が高いとは言えない状況。何歳くらいの方が被害を受けているかな	把握していない。 (事務局) 第4次計画の最終年度である令和2年を現状値として捉えている。 (事務局) 先日、県(男女共同参画担当)の主導で、市町村職員(男女共同参画担当)及び男女共同参画サポーターの意見交換会が行われた。意見交換会にて、他市町村の男女共同参画サポーターから、委員がおっしゃった内容と同様のご意見があった。コロナ禍を機にサポーター養成講座の受講方法についてオンラインに切り替わった経緯がある。このことから、サポーター同士の顔が見えない状況となっているといったご指摘もあった。県は、今後の講座受講方法について、オンラインだけでなく対面での講座を検討すること。過去には、盛岡にてサポーターが一堂に会する機会があったが、今後は、沿岸・県北・県南といったブロックでの活動も効果的ではないかといった話があったことから、来年度以降の開催方法については今までと違ったものになるのではないかと。各市町村においても、サポーターの事業参加や、サポーター同士の交流を進めていきたい。 (事務局) 令和6年度に実施した宮古市男女共同参画に関する市民意識調査の調査結果によるもの。 (事務局) そのとおり。 (事務局) 次回から修正いたしたい。
--	---

ど、現在のデータでは読み取りにくい。年代を把握することで、改善に向けたアプローチを、ターゲットを絞って行えるのではないか。 【(2)協議事項 第6次宮古市男女共同参画基本計画実施計画(案)について】 (委員) 第6次計画を策定する段階から挙がっていた話題として、興味関心のある方は積極的に講座などに参加するものの、興味関心があまりない方に対するアプローチをどのようにしていったらよいか課題となっている。 (委員) 目標値が人数の場合、割合(%)標記ではなく、人数(人)標記で記載して欲しい。 (委員) えるぼし・くるみんの認定数を増やすための具体的な取り組みはどういったものがあるか。 (委員) 第6次計画実施計画(案)の新しい取り組みとして「市職員の男女共同参画サポーター養成講座受講、年10人の受講」とあるが、興味関心のあまりない職員が受講することはとても良いと思う。受講生はどのようにして選ぶのか。 (委員) 先日開催されたアンコンシャス・バイアス講座について、市職員が多く受講しているように見受けられた。「各課から何人の参加」というように担当課から参加を呼び掛けたのか。	(事務局) 標記について、割合(%)標記の根拠となる人数を記載するようにしたい。 (事務局) 企業立地港湾課において、各企業に対し様々な制度の周知を行っている。このことから、担当課から直接企業へ働きかけるといった実施計画となっている。 (事務局) 現在は、男女共同参画推進連絡会議の委員となっている所属長の受講を呼び掛けている。来年度は今年度受講しなかった他の部署といったように、点で少しずつ増やしていきたい。 (事務局) 先日のアンコンシャス・バイアス講座については、市職員の参加は強制せず、自主的な参加を促した。
---	--